

学校教育目標	「自ら学び やさしい心で たくましく生きる 子ども」				
	【健康な心とからだをもち、自分も友達も大切にしながら、 自らの言葉で伝え、行動できるたくましい子どもを育てます。】				
学校概要	創立 28 周年	学校長 榊原 一紀	副校長 和田 晋治	2 学期制	一般学級： 12 個別支援学級： 3
	児童生徒数： 371 人	主な関係校： 富岡中・富岡小・西富岡小・能見台小・金沢中・釜利谷東小・八景小・文庫小・金沢小			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	富岡中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
「自ら学ぶ力」 「表現力」 「他者意識」	富岡中学校 能見台南小学校 能見台小学校 富岡小学校 西富岡小学校	『TWO YOU』 優・・・「自己にも他者にも思いやりのある子」 勇・・・「未来を見すえ、一步踏み出し、表現できる子」 ・『TWO YOU』をテーマとした2回のブロック合同授業研究会を行い、育てる子ども像の共通理解を図ったり、指導の在り方について検討したりする。 ・小学校運動会への中学生ボランティア参加や児童生徒交流日など、児童と生徒の交流に積極的に取り組む。

中期取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体性や表現力のある子を育てることをめざし、分かる授業を展開する</li> <li>・人権教育をとおして、自分も周りも大切にすることを育みます。</li> <li>・健康教育を通して、運動と食の大切さと自分の健康を大切にする子の育成に努めます。</li> <li>・地域社会とつながり、自立した子の育成に努めます。</li> </ul>
--------	--

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①主体的に学ぶことができるように、子ども自身が見通しをもてるような学習計画を立てる。②子どもが身についた力を認知することができるように、視点を明確にしたふりかえりや他者からのフィードバックを行う時間を設定する。③学習の中で必要感のある対話場面を設定する。④自分に合った学びを主体的に進めることができるような個別最適な学びを推進する。
担当	学習マネジメント部	
徳	人権教育	①子どもたちが進んであいさつしたり規範意識が高まるように指導する。②なかよし活動だけでなく、他の異学年交流をより充実させることで、多様性を認め合う子どもを育てる。③職員研修で職員の人権意識を高めたり、人権週間や道徳教育を充実させ個性を認め合える力を育てたりすることでいじめのない学級づくりを目指す。
担当	指導部	
体	健康教育	①運動委員会主催の運動集會を通して、運動に親しむ機会を設定する。②運動を楽しむ子を育成する安全で安心な体育学習を行うことができるように、授業改善に向けた研修を行う。③学校保健委員会では、子どもたち自身が「元気に過ごすために自分たちができること」を考え活動するとともに、体験的に学ぶ場面を取り入れていく。
担当	指導部・体育部	
公開	自分づくり教育 (キャリア教育)	①キャリアパスポートや各種行事等、自分づくりに関する振り返りは即時的、また間を開けずに行う。②まちへの愛着が高まっていくように、総合的な学習の時間では、まちの材や地域の人材などと関わる単元開発を行う。
担当	学習マネジメント部	
いじめへの対応		①いじめが起こらない学級づくりやSOSの出し方、いじめ対応などについて研修を行い、学級経営に生かしていく。②いじめの早期発見のため、教育相談、生活アンケートやY-Pアセスメントを行う。③事案については、担任一人が抱えることのないよう、いじめ防止対策委員会を開き、迅速に組織的対応をする。
担当	指導部	
人材育成・ 組織運営(働き方)		① 学年主任を核とした学年経営を行ったり、月1回のメンター研修を行ったりすることで、つながりを大切にしたい人材育成を行う。②働き方改革につながるよう、仕事を整理したり、会議の時間を決めたりして、効率的な勤務の検討、実践を行う。
担当	教務部・	
特別支援教育		①誰もが安心して学習に取り組めるように、「ユニバーサルデザイン」の視点に基づく授業づくりをする。②子ども一人ひとりの個性を把握し、学校生活で抱える困難さを改善するための指導ができるように、情報共有、学年研究会、特別支援委員会、研修、会議等で深めていく。③子どもにとってどのような支援が必要か見立て、保護者と共有した上で、SCやSSW等関係機関との適切な連携を考えていく。
担当	特別支援委員会	
安全管理		① 授業中の事故防止のために職員研修(体育、家庭科、図工等)を行い、日々のチェックを欠かさないようにする。② 子どもに安全な過ごし方(雨の日や暑い日の過ごし方、廊下の歩行等)の具体例を示し、指導を継続して行う。
担当	学習マネジメント部・指導部	
情報教育		① タブレット端末やロイノートを使った実践を共有したり、デジタルドリル、どこでもスタディや学習eポータルを研修したりすることで、教員のスキルアップを目指す。② 引き続きタブレットの使い方や情報モラルを守るよう、保護者への情報発信と子どもへの注意喚起を行う。また、7月以降の端末持ち帰りについての約束・扱い方についても検討していく。
担当	GIGA推進委員会	
		c10
担当		